

# 校内研究について

## 1 研究主題

学力向上を目指して、言語活動の充実を図る授業の工夫

～ 「話す」「書く」の活動を軸とした、思考力・判断力・表現力の育成 ～

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 主題設定の理由

#### なぜ話す力が必要か

子どもたちがこれから社会へ巣立つ際には、人の前で話したり、原稿を読んだりするスキルが必要となる。また、身近な日常生活においても、相手にわかりやすく伝える力が必要になってくる。友達との雑談の延長では、やはり締まりがない。ここでこう話して、次でこう話す。そして、最後にこういう言葉で締める。という習慣を身に付けた方が相手は納得しやすい。それは、整理された話だからである。また、別の視点で話す力を考えると、問題が発生したときに話す力が乏しいと、相手に伝わりづらく誤解を生んだり、時間が余計に掛かったりする。ところが、ある程度、人の前で話す力が身に付いているものは、トラブルがあっても冷静に対処できるものである。相手に理解してもらおう術を知っていることにより、必ず誠意をもって対応してくれる。その点からもスピーチ力、話す力は必要なのである。これは、国語に限らず様々な学習活動や日常生活で育んでいくことが重要である。

「先生、言いたい。」「私の考え聞いてよ。」意欲的に学習を進める荏原平塚学園の子どもたち。学習に対して、様々な思いをもち、その自分の思いを素直に表す姿を見せている。これまでの研究で、私たちが着目したものが「言語活動」である。

素直に自分の考えを表現できる子どもたちの姿はこれまでの研究の成果である。しかし、相手意識をもっともってほしい、という点が課題となって浮かび上がってきた。そこで今年度は、さらに思考力・判断力が伴った「話す力」の育成を図っていく。

現代は、人と人との関わりが希薄ともいわれる。その点は本学園の子どもたちにも若干垣間見える。そこで、本学園では、今後2年計画で相手意識を伴った思考力・判断力の向上をめざし、言語活動の充実を図っていく。具体的には、次の視点に基づいて進めていく。

### ①「生きる力」を育む視点から

社会のグローバル化が進んでいる。グローバル化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。また、現代は新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」を迎えている。これらの社会的背景を受けて、今、教育現場ではあらゆる分野において「生きる力」を育むことが重要になる中で、コミュニケーション能力の重要性が言われている。そして、そのコミュニケーションの核となるのが言語活動である。

### ②学力向上の視点から

「生きる力」を育むために、学力の向上が欠かせないことは、論をまたないところであろう。学力の大きな部分を占めるのは思考力・判断力・表現力であり、これらは言語活動を基盤に行われる。言語活動の充実なくして学力向上はありえない。さらに、言語はコミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。生きる力や豊かな心

を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが今、学校教育に求められている。「学力（確かな学力）」を知識・理解や技能に加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力と捉える。なお、本学園では思考力・判断力・表現力に重点を置き、学力の向上を目指す。

**以上のことから研究主題を「学力向上を目指して、言語活動の充実を図る授業の工夫」とした。**

## (2) 副主題設定の理由

施設一体型義務教育学校のメリットは義務教育のスタートとゴールを全教員で共有できることと、中一ギャップの解消に向けて教員同士の理解が図れること、さらに自校の子どもたちのために共に共通した研究を行えることにある。言語活動が学習の中で大きなウェイトを占めることは上記のとおりだが、言語活動は主に「話す・聞く」「書く」「読む」で行われる。これからの社会で求められることは、自分の意見をしっかりと、相手に思いを伝えることである。一方的に伝えるのではなく、相手の立場や周りの状況を踏まえて伝えることが求められる。そのためには、論理的に思考し表現する力を育むことが必要不可欠である。そこには、思考力・判断力が伴った表現力の育成が不可欠となる。「話す」「書く」力は、集団面接や自己PRなどの実践的な場で必須能力である。これらの点から、「話す力」「書く力」を手段として用いた授業づくりを目指すことが不可欠となると言える。

**以上の理由から副主題を「『話す』『書く』の活動を軸とした、思考力・判断力・表現力の育成」と設定した。**

## 3 研究主題に迫るために

### (1) 目指す児童・生徒像

研究主題に迫るために、目指す児童・生徒像と研究の仮説を設定し、それを検証しながら研究を深めていく。

#### ①9年間を通して目指す姿

- ・言語活動を基にして、確かな学力を身に付け、思考・判断・表現することができる児童・生徒
- ・言語能力を身に付け、豊かな人間関係を築くことのできる児童・生徒
- ・身に付けた学力を十分に発揮し、自分の描いた進路を達成できる児童・生徒

教科の学習でこんな姿に育てたい	日常で活用できるこんな姿に育てたい
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中から話題を決め、話すための材料を人との交流を通して集め整理できる。</li> <li>・全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すことができる。</li> <li>・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わりやすい安定した速さで話し、効果的な間を取ることができる。</li> <li>・声の強弱や高低を意識的に使い分ける力がある。</li> <li>・相手にイメージが伝わる単語を意図的に選択して使える力がある。</li> <li>・相手が「わかりやすい」と実感できる具体的な言葉、数値などを使える力がある。</li> <li>・相手に強い印象を与える表現方法（ギャップ法等）を使える力がある。</li> <li>・相手に感情移入できるよう自分のエピソードを語れる力がある。</li> </ul>

②研究仮説

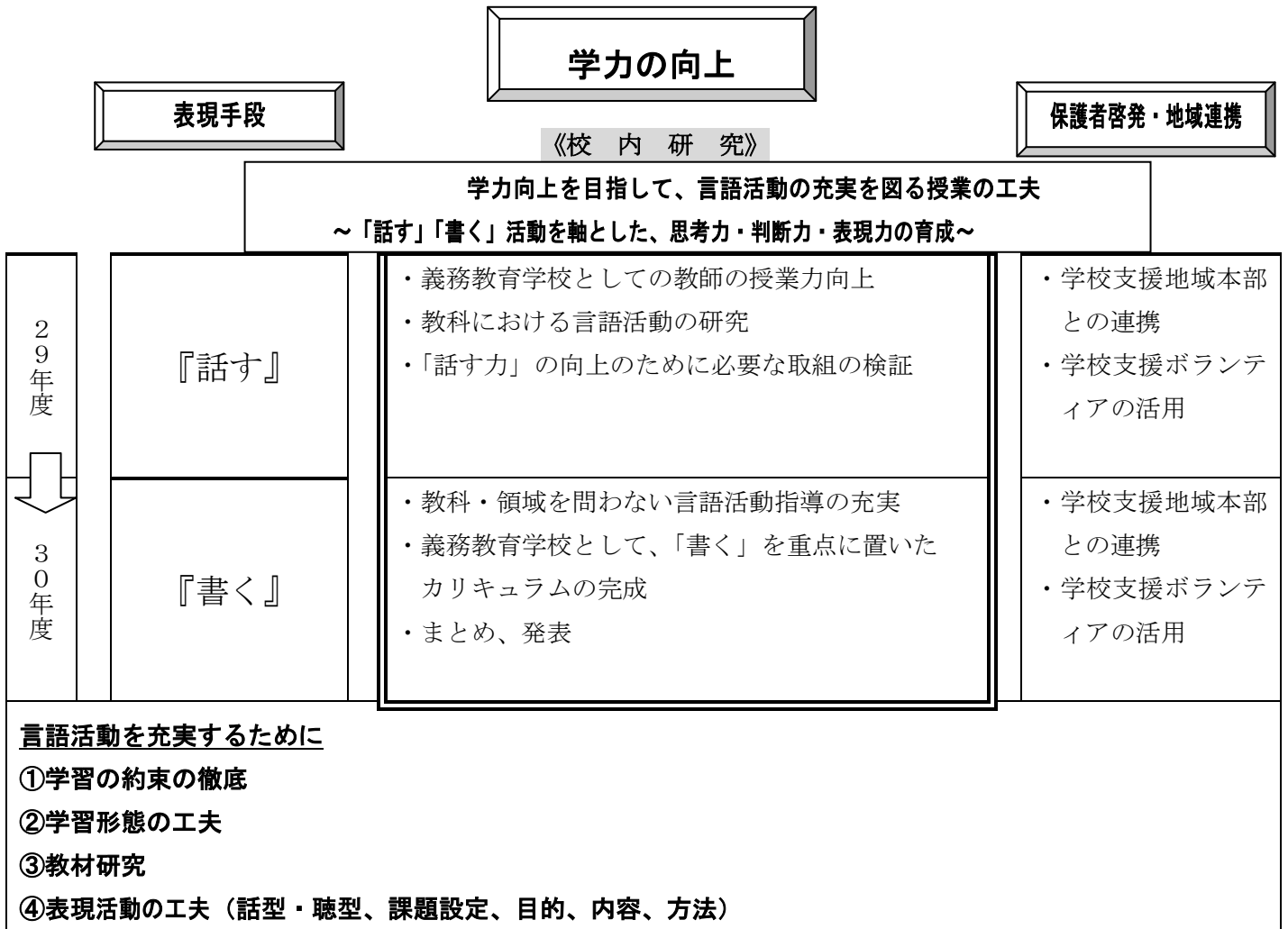
次のような授業づくりを行うことによって児童・生徒の学力及び言語能力が向上し、生きる力や豊かな人間関係を築く資質を身に付けることができるであろう。

③主題に迫るための手立て

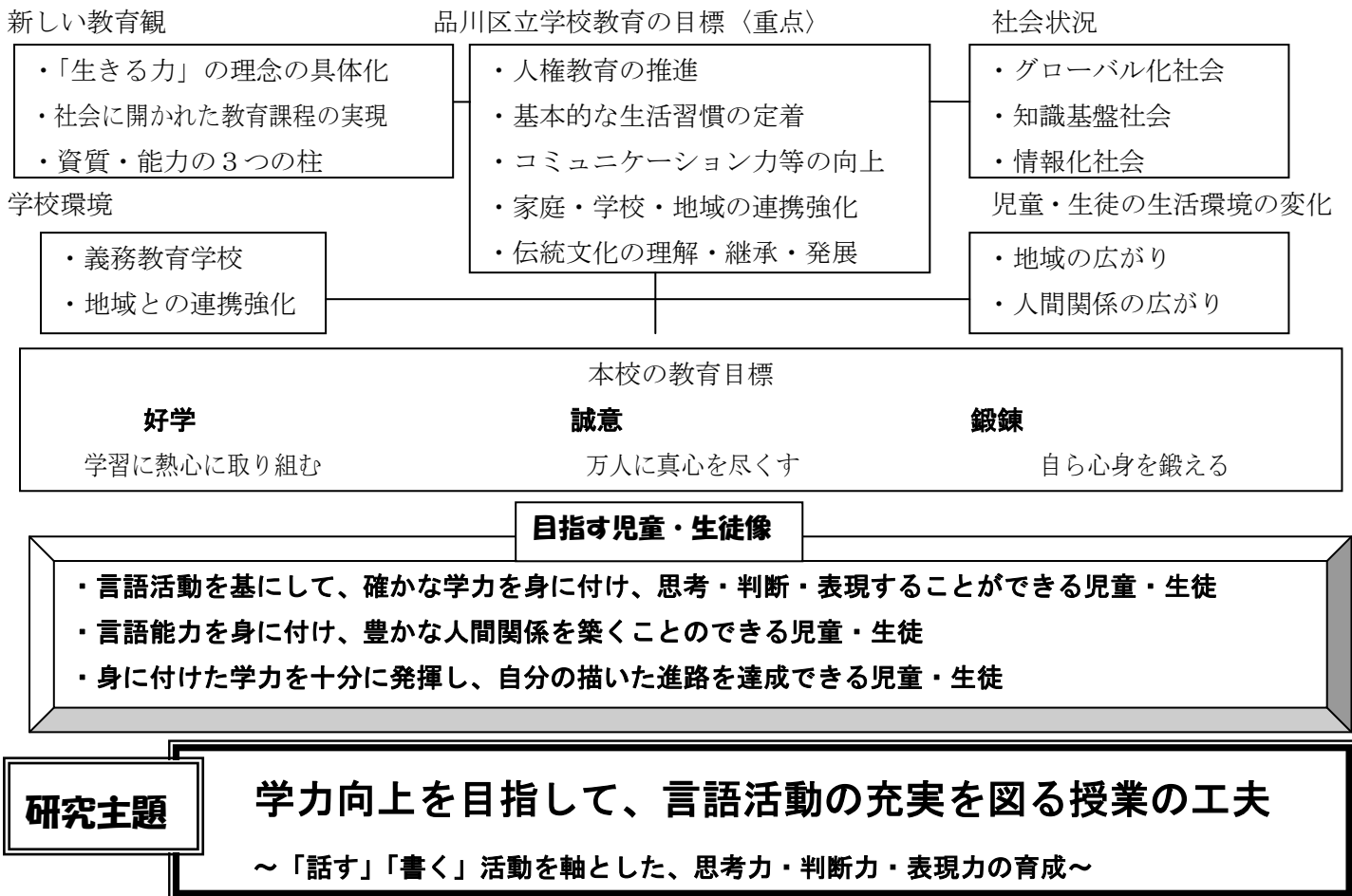
- 小中が連携して系統的な指導を行う。
- 単元を通して、言語活動の充実を図った授業づくりを行う。
- 発言方法や発表方法、ノート書き方の系統性を明確にする。
- 教科や単元によって話し合い活動を取り入れ、効果的な話し合いの方法を身に付けられる指導を行う。
- 本校独自の学習システムを確立させるとともに保護者の啓発を行い、家庭学習力を高める。

(2) 研究の内容

児童・生徒の学力向上のため、指導法の改善を図りながら教師自身の授業力向上を目指していくものとする。今年度は「話す力」、次年度は「書く力」に重点を置いて取り組む。



### (3) 研究構想図



	(29年度)学年に応じた「話す力」の目標の系統
9年	目的や場面に応じ、相手や場に応じて話す能力を育てる
8年	目的や場面に応じ、考えの違いを踏まえて話す能力を育てる
7年	目的や場面に応じ、構成を工夫して話す能力を育てる
5・6年	目的や意図に応じ、的確に話す能力を育てる
3・4年	相手や目的に応じ、筋道を立てて話す能力を育てる
1・2年	相手に応じ、事柄の順序を考えながら話す能力を育てる

#### 【研究仮説】

次のような授業づくりを行うことによって児童・生徒の学力及び言語能力が向上し、生きる力や豊かな人間関係を築く資質を身に付けることができるであろう。

- 小中が連携して系統的な指導を行う。
- 単元を通して、言語活動の充実を図った授業づくりを行う。
- 発言方法や発表方法の系統性を明確にする。
- 教科や単元によって話す活動を取り入れ、効果的な話合いの方法を身に付けられる指導を行う。

#### 【研究の内容】

